

『小学校教育実習ガイド』訂正表

この度、弊社刊行書籍『小学校教育実習ガイド』（第2版第1刷）に、次のような誤りが判明いたしましたので、お詫びして訂正いたします。

令和3年9月 株萌文書林

※太字（下線）部分が訂正箇所です。

● p 80（表の中）

「④評価規準

単元目標の実現状況を判断する拠り所を具体的な子どもの姿として書く。」

● p 81（12行目～）

「④評価規準

授業を通して育てる「資質・能力」をはかる、①知識・技能、思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度、の3つを観点として…（略）」

● p 82（2行目～）

「⑧本時の目標

「本時」とは、授業を行う1時間の授業です。単元展開計画の何時間めの授業として、どのようなねらいで授業を行うか、簡潔、具体的に箇条書きにします。」

● p 119（解説本文差し替え）

「POINT ④ 事前に評価規準を明確にしておき、評価に応じて個への手立てを考えておこう。

授業中、児童に対して適切な指導を行うためには、事前に教師が本時における評価規準を明確にもっておくことが必要である。さらに、評価規準で示した子どもが身につけたい力の習得状況の程度を明示するために、「A：十分に満足できる」「B：おおむね満足できる」「C：不十分である」の3段階で文章表記することがある。

このような具体的な評価手立てを事前にしっかり考えられていると、場当たりの指導が回避でき、授業の質もより確かなものにしていけるはずである。」

● p 122（①この教科のねらいの立て方、5行目～／取り消し線部トル）

「の3つから構成された観点別達成目標を立てるのが一般的です。また「本時の目標」は、その時間の学習内容と単元目標と照らし合わせながら、指導と評価に無理のないよう」

● p 156（①この教科のねらいの立て方、3行目）

「びに向かう力・人間性等』の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る」ことと書かれてい